

第4回「川でつながる発表会」

小学生から大学生まで川・水に関する発表をして交流！

実施日時

平成20年2月10日(日) 13時～16時

参加人数

約118名

発表校および発表テーマは以下のとおりです。

川をはじめとして身近な自然環境など、様々なことをテーマに学生たちが発表を行い、来場された方々は学生たちの発表を熱心に聞いていました。また、学生たちの発表に対して、コメンテーターからの質問やコメントがありました。ロビーでは発表会と平行して、パネルの展示が行われました。

学校名	発表テーマ
法政大学 水文地理学(小寺)研究室	新河岸川流域水環境の現状と保全・再生・共生に関する水文地理学的研究
早稲田大学自然環境調査室	早稲田大学 所沢キャンパス 湿地保全活動
埼玉県立福岡高等学校	新河岸川の水質調査
埼玉県立富士見高等学校	おおむね富士見市内を水源とし新河岸川に流れ込む川の今を訪ねて…2007-2008(含. 砂川堀、柳瀬川の富士見市部分)
朝霞市立朝霞第三中学校	朝霞第三中学校と黒目川の自然
私立明法中学・高等学校	野火止用水を歩いて
清瀬市立清明小学校	清瀬下宿ビオトープの生き物たち-春・夏・秋・冬-
所沢市立牛沼小学校	東川の自然と環境

■小学校



清瀬市立清明小学校は、清瀬下宿ビオトープについて、春夏秋冬の草花、虫、鳥、魚などの観察や、観察を通じて学んだこと、そしてこの活動によってさまざまな植物、虫たち、鳥たち、川の中の生き物たちと仲良く生活することの大切さに気づいたという発表をしました。



所沢市立牛沼小学校は、東川の上流から下流までの川や生き物について調査をした結果、上流部では人為的な汚染が進んでいたことや、地域の人々や自治体によって川沿いに桜が植えられての自然を感じる環境がつけられていることを知り、自分たちもその環境を壊さないよう小さなことから心がけ、少しでも貢献したいという発表をしました。最後には、東川で取り組まれている災害対策なども採り上げました。

■中学校



朝霞市立朝霞第三中学校は、学校近くの黒目川は多種多様な生き物が存在する川で、理科の授業や総合学習の時間に行った『黒目川体験講座』などでその自然と触れ合うことができた、この生態系を壊さないようみんなが見守る心をつくってほしいという発表をしました。



私立明法中学・高等学校科学部は『環境を考えた科学と物づくり』をテーマに、毎週土曜日の水質調査や、野火止用水のゴミ拾い散策(清瀬駅から新河岸川合流点まで)などを行っていて、ゴミ拾いでは特にタバコのすいがらが目立ったという報告をしました。また、ゴミ拾いを東京湾までつなげていきたいという今後の展望についての発表もありました。

■高校



埼玉県立福岡高等学校は、昨年度より広い範囲で調査を行い、同じ川でも上流と下流で水質が異なることや、化学水質検査と水中細菌の検出結果が必ずしも一致しないという結果を報告しました。また、川幅や植物は水質を浄化させると推測されるため、周囲の環境をよくすれば水質も改善できるという考察がありました。



埼玉県立富士見高等学校は、武蔵野台地崖の湧き水を水源とし、台地を削って市内を流れる川である砂川堀、図川、尺地堀、富士見江川、旧富士見江川、東櫻井都市下水路、権平川、唐沢堀、柳瀬川を、撮影し、ファインダーを通じて感じたこと、さらにその地域の歴史的な背景も加えた発表をしました。

■大学



法政大学は、小流域原単位法によって新河岸川流域の汚染負荷量を推計し、身近な川の一斉調査の実測値との比較、GISのデータとの組み合わせによる流域の特性を考察しました。また今後の展望について、新河岸川の総合的な流域管理に利用できるような研究を進めていくことや、そのためには産官学民による連携が必要であるという発表がありました。



早稲田大学所沢キャンパスの湿地保全活動の特徴は、早稲田大学自然環境調査室による専門的な指導のもと、学生と市民が協力して実施していることです。活動としては、下草刈りや落ち葉かき、シジュウカラの観察など、年間を通じた調査、外で行う作業、散策、講義の4つを行っているという発表がありました。

全校が発表を終了した後は、休憩時間を利用して、発表内容や展示パネル内容によるクイズラリーを行い、参加者同士の交流を深めました。また、荒川下流河川事務所調査課長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与され、新河岸川水系水環境連絡会代表から、発表会全体を通しての講評がありました。最後に恒例の記念撮影を行いました。